

富山県・オレゴン州友好提携20周年 記念事業の実施について

富山県観光・地域振興局国際・日本海政策課

1 はじめに

富山県とオレゴン州は1991年10月19日に友好提携を結んで以来、2011年で20周年を迎えました。

オレゴン州は親日的で、自然環境や気候風土、州民性など本県と類似点が多く、県民が親しみを感じることができる州であるということから交流が始まりました。

友好提携以来、富山県とオレゴン州は職員や教員の相互派遣のほか、実務協議団や友好訪問団の派遣・受入など各種友好交流事業を行ってきました。その中でも、5周年事業として実施した「富山カップ日本語スピーチコンテスト」はその後も継続して開催し、大学生を対象とした州内で唯一の日本語スピーチコンテストとして地元根付いた事業となっており、今年で15回目を迎えました。

しかしながら、近年では、両県州の交流事業は実質的にスピーチコンテストのみとなっていたことから、友好提携20周年を両県州の友好関係を再確認・アピールするとともに新たな交流の可能性を探る契機としたいと考え、友好訪問団の派遣に合わせ各種記念事業を実施しました。

2 富山県産品のPR事業の実施

富山県・オレゴン州友好提携20周年記念レセプションは、州の交流窓口である経済開発局のティム・メイクブ局長ほか州政府関係者、州から富山県への派遣職員OB、富山県出身者、現地の観光事業者や飲食業者など約80名の参加のもと、在ポートランド日本国総領事館との共催により総領事公邸で開催されました。

レセプションでは、富山県とオレゴン州の食材を利用した越中料理の提供や富山の地酒PRコー

ナーの設置、観光DVDの上映などにより、富山県の食と観光の魅力をアピールしました。

メニューは、富山県の名産である「ます寿司」をオレゴン産の鱒を使って再現したのを始め、白えびのかきあげ、オレゴン産天然キノコが入った温かい氷見うどん等、ポートランド市内でオーガニックの食材を使った日本料理店を営むChef Naokoの田村なを子さんと相談しながら、富山県とオレゴン州の食材それぞれのよさが引き立つ内容としました。

参加者にはいずれの料理も大好評で、特にます寿司の再現は、富山から持ってきたものと間違えられるほどの完成度でした。「お店で売る予定はないのか」「ぜひChef Naokoでのメニューに加えて欲しい」といった声も聞かれました。

その他、富山から持参した鯛のかまぼこ、白えびの酢漬け、ほたるいかの甘露煮もふるまいました。



オレゴン産の鱒を使ったます寿司の再現

また、レセプションでは蔵元による富山の地酒PRも行いました。オレゴン州は全米で6番目に日本料理店が多く、日本食通が多いことから富山の地酒をPRするには最適な土地柄です。富山の蔵元を代表して(株)榊田酒造店の榊田隆一郎社長が訪問団に同行しました。レセプションでは富山の

地酒コーナーを設置し、満寿泉（限定大吟醸・貴醸酒・純米大吟醸SPECIAL）、米の芯（純米大吟醸）、幻の瀧（大吟醸）、越中懐古（純米大吟醸）の6種類の地酒を紹介しました。参加者は梶田社長の日本酒の説明に熱心に耳を傾け、興味深げに聞き入っていました。日本酒を初めて飲んだ参加者は、「日本酒は敷居が高かったがとても飲みやすくて驚いた。これからはもっと色んな日本酒に挑戦したい」と話していました。



蔵元も参加し富山県の地酒や越中料理、観光をPR

観光PRコーナーでは富山の観光DVDを放映し、観光案内ブースを設置しました。

観光DVDは八尾町の「おわら風の盆」と立山・黒部アルペンルートの映像を放映しました。立山・黒部アルペンルートの映像を見ていた参加者からは「富山とオレゴンの景色は自然が豊かでゆったりしたところがとても似ていて親しみを感じる」との声が聞かれました。

また、観光案内ブースでは立山・黒部アルペンルート、黒部峡谷、世界遺産五箇山合掌造り集落のパンフレットを配布するとともに、富山県推奨とやまブランドのパンフレットを置き、レセプションでふるまわれた「ます寿司」や「白えび」をはじめとする富山のブランドを紹介しました。

3 「富山 MANGA 文庫」の開設

富山県は「ドラえもん」の作者である藤子不二雄などの著名な漫画家が生まれた土地であり、これらの漫画家の手によって、世界各国に愛され、日本を代表するにふさわしい優れた作品が多く生み出されています。また、近年では漫画はアニメと並んで日本発のポップカルチャーとして認識されており、アメリカにおいても高い人気を集めています。

このことから、県出身漫画家による漫画作品および富山県が舞台となっている漫画作品を富山県南砺市と交流のあるオレゴン州のマウントテーバー中学校に「とやまMANGA文庫」として寄贈しました。オレゴン州の青少年の日本語学習意欲を刺激するとともに、オレゴン州における富山県や日本の文化の発信拠点としたいとの願いを込めています。

11月2日に行われた「とやまMANGA文庫」開設セレモニーにはマウントテーバー中学校の生徒と南砺市中学生派遣事業でオレゴン州を訪れていた南砺市の中学生たちも参加しました。植出耕一副知事から「富山県は多くの著名な漫画家を生み出しており、漫画を契機として富山県にも関心を持って欲しい」とあいさつすると、ジェイソン・ブレイカー副校長からは「日本のMANGAは人気が高く、楽しみながら学習できる優れた教材としてとても役立ちます」と感謝の言葉がありました。



「MANGA文庫」を囲むマウントテーバー中学校と南砺市中学生海外派遣団の生徒たち

4 おわりに

訪問団がオレゴン州で実施した一連の記念行事を通じ、富山県の食や観光の魅力を発信するとともに、オレゴンの人々の富山県への関心を大いに高めることができました。また、漫画を通じた文化的・教育的な交流、食や観光のPRといった将来的な経済・観光交流にもつながる取組みにより、新たな交流の可能性を探る意義のあるものとなりました。

こうした記念行事とは別に、オレゴン州政府の各部局と今後の両県州の交流事業のあり方について実質的な意見交換を行い、問題意識を共有できたことも今回の訪問の成果の一つでした。今後とも、オレゴン州政府と連携協力しながら友好交流の推進に取り組んでいきたいと考えています。